

27F-pm07

在宅用教育症例を用いた症例検討における教育的効果の検討

○大沢 友二^{1,2}, 潮平 英郎³, 島添 隆雄², 小武家 優子⁴, 大光 正男⁴, 吉武 毅人⁴ (ひまわり薬局,²九大院薬,³琉球大病院薬,⁴第一薬大)

【目的】在宅医療推進目的に模擬体験として症例検討用在宅症例作成ワーキンググループで作成した症例を用いた症例検討実施による教育効果を検討した。

【方法】沖縄薬剤師会と九州大学でいずれも同一の糖尿病症例を用いた症例検討を実施し、症例検討到達度合いを、自己評価アンケートを用いて評価した。

【対象】沖縄薬剤師会症例検討研修会参加者（以下略称沖縄）69名、九州大薬学部学生（以下略称九大）35名

【結果と考察】沖縄アンケート53名（回収率77%）、九大34名（回収率97%）質問項目4分野22項目、自己評価点数（1-5点）で実施した。

4分野（薬物治療計画立案、薬物治療の多様性の理解、薬物治療の科学的検討、在宅医療の習得）の自己評価結果を検討した。

薬物治療計画立案 沖縄平均2.5点、九大3.7点、薬物治療の多様性の理解 沖縄2.6点、九大3.7点、薬物治療の科学的検討 沖縄2.3点、九大3.6点、在宅医療習得 沖縄2.2点、九大3.6点であった。沖縄は前年度2回症例検討を実施したため症例検討の経験の有無で検討した。薬物治療計画立案 有3.0点、無2.2点、薬物治療の多様性の理解 有2.9点、無2.5点、薬物治療の科学的検討 有2.8点、無2.3点、在宅医療習得 有2.4点、無2.1点であった。

九大の自己評価点数が、沖縄より高い結果を示したことから学生の在宅医療習得に適した教育ツールであることが示された。沖縄では症例検討経験有りが、無しより自己評価が高い結果から症例検討を経験することの重要性が示された。九大の自己評価が高い理由は、系統的な症例検討カリキュラムによると思われる。在宅医療推進に沖縄の結果から症例検討を経験することの重要性が示唆された。